

地球時代の選択肢

## アフリカに移住した家族

吉村 峰子 (南アフリカ・ダーバン在)



### 第 61 回

### ダーバンの洪水災害

2022年4月11日、私の住む南アフリカ・ダーバンは洪水による大きな被害を受けました。その日は月曜日で午後3時過ぎまで通常の授業をし、帰宅した頃から雨量が急激に増えてきました。が、その先週の金曜日からも大雨は始まっており、通した降雨量はかなりの量になっていたのです。月曜の夕方から次の日にかけての降雨量は20年近くダーバンに暮らす私にも初めて経験するスケールのものでした。ただ、私の家のある所は高い崖の上であり、大雨で外のドアにちょっとダメージがあったくらいで、被害からは免れております。

5月29日時点の報道 (Bloomberg Africa Edition) では、死者数は459人に達しており、現在も行方不明者の捜索と救助活動が続けられています。4,000棟近くの家屋が全壊し、8,300棟以上が一部損壊し、一時は4万人以上が避難していたとされています。

南ア気象局によれば、同州の一部観測所では24時間で300ミリ以上の降雨量を記録したらしく、ダーバンの年間降雨量が約1,009mmであるため、これは年間降雨量の約三分の一が24時間で降ったということになります。

簡単に地球温暖化と結びつけるべきではない、という意見も読みましたが、これはどう考えても、その影響があるのでは、と考えます。これだけの降雨量がこの短時間で起こるとどうなるか、の実験結果のような惨状が目の前に広がりました。



Photo credit BBC

衝撃的だったのが、主要の幹線道路が陥没し、ダーバン港から大きなコンテナがいくつもいくつも流れ出ていた映像でした。通常、私がよく使う幹線道路が完全に使いものにならなくなってしまったのです。

また、地盤の弱い地域では家ごと、集落ごと土砂崩れが起き、たくさんの方が亡くなったり、行方不明になりました。



Photo credit New York Times

さて、ニュースの中での死者 459 人という数字。実は、私はこの数字そのものが正確ではないのではないかと疑っています。なぜなら、ダーバンに限らず、南アにはいわゆる“不法滞在”と呼ばれてしまう近隣諸国からの出稼ぎ労働者がたくさんいて、その大多数が地盤の弱い、あるいは急斜面に並んでいる掘立小屋に住むことが多いからです。

在留資格を持たない彼らを“不法滞在者”と安易に区分けしてしまうこと自体にも、私は異議があります。

南アの陸続きの国境では、こういった在留資格を持たない隣国の人々に対し、あきらかに「賄賂」で持って、彼らの入国を許している現実が存在するからです。その「賄賂」の少額なこと。たかだか 4 千円程度のお金でパスポートさえ持たない人々が軽々と国境を越えてしまうのです。これを公の機関がしていることは周知の事実です。実際、そうやって国境を「ジャンプしてきた」という人を何人も知っています。

私からすると、こういう現実が存在するのは、賄賂を欲しがる南アの公務員がいるからです。またその現実を放置させている政治家たちがいることを忘れてはいけないと思っています。

世の中、すべてを白黒で決着をつけるのは無理だ、という現実があります。が、こういった災害に見舞われた際、自分たちの存在そのものが世の中から忘れられている人たちもいるのです。マラウィ人が多く住む、私の家から約 20 キロ離れた地域でも大きな被害がありま

した。その中の数名はまだ安否さえも確認されていません。何回か現地に行こうとしましたが、道路が分断されていて目的地まで行きつけませんでした。

不法だろうが、合法だろうが、災害やコロナのようなウイルスは人を選びません。南ア人だけが、日本人だけが助かればいい、という話ではないのです。

さて、これら山沿いの地域とは別に、最大の被害を被ったのは、海沿いの地域でした。その中でも、日本のトヨタの工場が地上 1.7 メートルまで浸水し、多くの新しい車両、工場の機械・設備が使い物にならなくなりました。

実は、トヨタはダーバンにおける最大の企業で、直接の従業員は 8000 名弱、そして、その周辺のサプライヤーなどを含めると、20 万人の人々がトヨタからの収入で生計を立てている、とも言われています。

そのトヨタの製造がこの 4 月の 12 日以来停止されているのです。

実は、私もトヨタの南ア人従業員への日本語教育を 2006 年より請け負っており、先生を 3~6 名派遣しながら常時授業をしてきています。



これは私の家の近くの道です。左側車線が完全に土砂崩れで通行不能でした。

私たちの3教室もすべてダメージを受けました。悲しいのは流れていったパソコン（中の資料も含む）だけでなく、過去18年に渡ってコツコツと作成してきた授業用の資料とか、教材とかがすべて、文字通り水に流れて行ってしまったことです。

しかし、日本に派遣されるべく勉強している生徒たちもたくさんいたので、あっちこちの開いている部屋を急ごしらえの教室とし、4月の末には授業も再開させることができました。

私のTwitterでこういうことを知ったフォロワーさんの中から教材を提供するお申し出があったり、また、現在トヨタの職員が助っ人として日本からダーバンに100名規模で来てくださっており、そういう方々に日本から教材を運んできていただいたり、と本当に多くの方々のご支援でなんとか体制を整えつつあります。

私のしているお弁当事業でも、こういった方々にお昼やおにぎりの提供をさせていただいています。特に、“ウェルカムおにぎりセット”は、遠路30時間かけてダーバンに到着する方々に、「ダーバンへようこそ・ありがとうございます」用お弁当として注文をいただき、お届けしています。手作りの塩鮭と昨年作っておいた梅干しのおにぎり二個。それにだし巻き卵、お漬物を付けています。



おにぎりくらいでできることなどできるかたかがしれているのですが、食べた方に数分間のほっとする時間を提供できたら、と思い、毎日大量のおにぎりを握っています。

ダーバンの復旧が一日も早く終わり、平常が戻ってくることを心から祈っております。